

認知症を知ろう

「加齢によるもの忘れ」と「認知症によるもの忘れ」の違い

加齢によるもの忘れ

記憶の帯



体験の一部を忘れる

- 体験や出来事の一部を忘れる。
- ヒントがあれば、忘れた部分を思い出すことができる。
- もの忘れをしている自覚がある。
- 場所や人までわからなくなることはない。

日常生活に大きな支障は出ない

認知症によるもの忘れ

記憶の帯



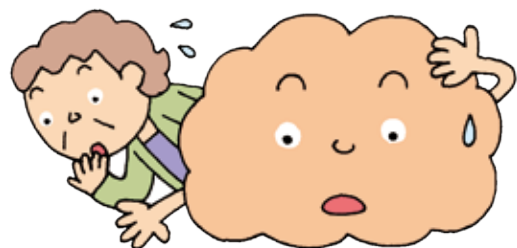
体験全体が抜け落ちる

- 体験や出来事をすっかり忘れてしまう。
- ヒントがあっても思い出せない。
- もの忘れをしている自覚がない。
- もの忘れがひんぱんに起こる。
- 場所や人までわからなくなることがある。

日常生活に支障が出る

認知症とは

脳の病気が原因となり、脳の細胞が損傷を受けたり、働きが悪くなることによって、記憶や思考、判断などの能力が低下し、生活の中で様々な困りごとが現れる状態です。代表的な認知症は次の4つです。



アルツハイマー型認知症

いちばん多い認知症です。脳の機能が全般的に低下していきます。脳の変化は症状が出る何十年も前から起きており、徐々に進行していきます。

- 症状や傾向
- 女性に多い。
 - もの忘れの自覚がなくなる。
 - ゆっくり症状が進行する。
 - 人格が変わることがある。

脳血管性認知症

脳梗塞や脳出血などの病気で、病変部分の脳細胞の働きが失われることで発症します。脳梗塞の再発などで症状が段階的に進みます。

- 症状や傾向
- 男性に多い。
 - 意欲が低下しやすい。
 - 片麻痺や言語障害などがある。
 - 人格や判断力は保たれる。

レビー小体型認知症

脳にレビー小体という物質（タンパク物質）が蓄積されて発症します。生々しい幻視（ないものがあるように見える）があらわれるのが特徴です。

- 症状や傾向
- 手足の震えや筋肉の硬直で転倒しやすい。
 - 夜中に夢を見て騒ぎ立てる。
 - そこにいない人や動物、昆虫などの幻視がはっきりとあらわれる。

前頭側頭型認知症

脳の前頭葉や側頭葉が萎縮して発症します。理性や感情がコントロールできなくなり、常識を逸脱した言動などがみられます。

- 症状や傾向
- 同じ言動を繰り返す。
 - 興味や関心が薄れやすい。
 - 万引きや信号無視など社会のルールに違反したことをする。